

(様式第1号)

令和4年度 第2回芦屋市放課後子どもプラン運営委員会 会議録

| | |
|-------|--|
| 日 時 | 令和5年2月6日(月) 午後2時～4時 |
| 場 所 | 芦屋市役所 北館4階 教育委員会室 |
| 出席者 | 委員長 酒井 達哉 副委員長 柳生 加代子 委員 高橋 孝子 委員 金本 ひとみ 委員 小林 貴子 委員 小西 絵理香 委員 池田 恵 委員 野村 大祐 |
| 欠席者 | 委員 吉野 哲夫 委員 新宮 優子 |
| 事務局 | 社会教育部長 茶嶋 奈美 生涯学習課長 岩本 和加子 生涯学習課係長 石田 直也 生涯学習課管理係 海士部 香苗 青少年育成課係長 山内 健 青少年育成課主査 松本 匡史 |
| 会議の公表 | <input checked="" type="checkbox"/> 公 開 <input type="checkbox"/> 非公開 |
| 傍聴者数 | 0人 |

1 議題

- (1) 令和4年度事業報告について
 - ア 校庭開放事業について
 - イ あしやキッズスクエアについて
- (2) 令和5年度放課後プラン事業について
- (3) 学校運営協議会と地域学校協働活動について

2 資料

- 【資料1】 令和4年度の校庭開放事業実施状況・参加人数の推移
- 【資料2】 キッズスクエア実施状況資料
- 【資料3】 令和5年度放課後プラン事業について
- 【資料4】 学校運営協議会と地域学校協働活動について
- 【資料5】 芦屋市の地域学校協働活動について

3 議事内容

<酒井委員長>

議題（1）ア 校庭開放事業について、事務局からお願いします。

<事務局：海士部>

（配布資料：【資料1】に基づき、校庭開放事業について説明）

<酒井委員長>

ただいま事務局から報告いただきましたが、何か質問ありますでしょうか。
ないようですので、次の議題に移ります。

では議題（1）イ あしやキッズスクエア事業について事務局よりお願いします。

<事務局：松本主査>

（配布資料：【資料2】に基づき、あしやキッズスクエア事業について説明）

<酒井委員長>

ありがとうございました。

令和4年度で、これまでにない特色のあるプログラムを教えていただけますでしょうか。

<事務局：松本主査>

オンラインプログラムということで、2つの教室をZ o o mでつないで一緒に課題をクリアするというゲームを実施しました。1回目は潮見教室と宮川教室。2回目は精道教室と打出浜教室をZ o o mで繋いで体験プログラムを提供させて頂いたというのが例年にない取り組みかと思います。

<酒井委員長>

ありがとうございました。他に何かありますでしょうか。

<柳生副委員長>

浜風小学校のキッズスクエアに行っていますが、キッズスクエア内でロゴの募集があり応募したところ、賞状をいただいた子どもが大喜びしたので、応募数は少なかったのですが、こういった事があると子ども達が楽しめると感じました。

<酒井委員長>

子ども達も受け身でなく主体的になるのが大事な時代なので、そのような関わりですとかプログラムを考えていただけたらと思います。

続きまして議題（2）令和5年度放課後プラン事業について、事務局よりお願いします。

<事務局：海士部>

(配布資料：【資料3】に基づき、令和5年度放課後プラン事業について説明)

<酒井委員長>

ありがとうございました。何かご質問ありますでしょうか。

なければ、次の(3)学校運営協議会と地域学校協働活動に入りたいと思います。

事務局から説明をお願いします。

<事務局：石田係長>

(配布資料：【資料4】に基づき、学校運営協議会と地域学校協働活動について説明)

それでは、野村委員から学校現場で困っていることや地域のかたに入っていて助かっていることなど、簡単にご報告いただければと思います。

<事務局：野村委員>

子供も教員も非常に助かっている事の1つが登下校の見守りです。交通面や不審者に関する危険性もありますので、非常に有難く思っています。

教員の通常の勤務時間が8時15分～16時45分になります。つまり、子どもたちの登校時間帯は勤務時間前になります。私が教頭をしていました時は7時に学校に来て鍵を開けます。子ども達は7時30分～40分の間に家を出て、ころんだとかトラブルにあったとか不審者が怒鳴っている等で、駆けつけられる教員がいれば向かいますが、全てに対応するのは難しいのが現状です。そのような中で要所ごとに見守りベストを着て、旗を持って立ってくださっているのは、かなりの抑止効果があると思っております。

校内の植栽では教員で園芸担当がいます。夏場は水やりや草抜きがあります。委員会活動が小学校5、6年生で週に1回、時間割の変更があった場合は月に1、2回となると常時活動が難しくなり、そのような状態ですので、日々の活動で、登校が終わった後の9時頃から1時間程保護者のかたにお集まりいただき、校務職員と一緒にプランタの整備を手伝っていただき、大変助かっています。

9時頃は登校を渋りがちな子が来る時間帯で、その際は担任が迎えるか教頭が迎えるかになり、担任が迎える場合は、教頭がクラスに入りサポートします。この時間帯は地域の方に来ていただいて、さりげなくいつもどおり声掛けしていただく事がとても有難く、子ども達が、地域の方に守られていて安心して学校生活をおくることが出来ていると思えます。

樹木の剪定で高木につきましてはプロの業者任せですが、背丈より低い樹木に関しましては各学校で事情が異なりますが教員でする必要があり、中学生は部活動前後に手伝っていたりするのですが、小学生は時間が取れないので、ボランティアさんに手伝っていただき、大変助かっています。

防災では、自治会や自主防災会の方に来ていただき避難所開設の用意を非常に熱心に行われていまして、教員がいる時間帯なら連携を取ってしますが、災害はいつ起こるか分かりませんので地域の力が大きいと思っていまして、日頃から顔見知りになっていることが避難のしやすさになり、子ども達がこの人は地域の人だからということで安心して声

をかけられてSOSが出せる事は大きいと思います。

このような内容を学校運営協議会の中で共有したり、校長が教員や地域の方にリーダーシップを発揮してその話を降ろしていく、聞きっぱなしで終わらないという事が大事ではないかと、モデル的に実施している学校を見ながら思っているところです。

各学校に応じたビジョンや課題を共有し、市は運営協議会を設置している側の当事者として、学校は学校運営の当事者として、地域の方は会議の当事者として一緒になって地域の方はこんな思いでいるとか、教員はこういう思いで地域を見ているとか、子どもは地域の方に安心感をもっているというところを繋ぐところが、学校運営協議会の役割かと思えます。PTAやコミスク、キッズスクエアのそれぞれの組織が、学校運営協議会でこんな話があったと連携を取っていただきたいと思えます。

<事務局：石田係長>

野村委員ありがとうございました。

それでは、今からお配りしているワークシートに沿って少しご意見をいただければと思います。まずはワークシートの内容を説明させていただき、10分ほどお時間を取りますので、ご意見を記入いただければと思います。そのあと、記入いただいたご意見をもとに、協議いただきたいと考えております。

なお、ワークシートにつきましては、会議終了後に回収させていただき、今後の地域学校協働活動を進めていく上での資料とさせていただければと思います。

～ ワークシートの説明 ～

では、10分ほどお時間を取りますので、ご記入をお願いします。

<酒井委員長>

では10分経ちましたので、各委員からご意見いただければと思います。

初めに「あなたが理想とする学校はどんな学校ですか。そこでどんな子どもに育てて欲しいですか。」という項目ですが、ご意見を順にお願いします。

<池田委員>

私は、学校が入りづらい印象があります。不審者が入らないようにしている部分があるかと思いますが、子どもが小学校・中学校を卒業すると入りづらい感じがします。

地域に開かれた学校にするには、どうすればいいのか、ということになりますが、とにかく学校が行きやすい、入りやすい雰囲気にしていただけたらと思います。

<小西委員>

娘が小学校に在籍してしまして、不登校児童が増えているように思います。そういった問題をかかえている子ども達が少しでも学校に来やすい、過ごしやすい学校が理想だと思います。学校を楽しんでいる子どもは楽しんでいるので、困っている子どもがいたら、手を差し伸べられる子に育ててほしいと常々思っているのと、地域学校協働活動を行う

上での課題で、キッズスクエアの活動に参加していて、小学校在籍の娘からの情報で、学校に行けていない子どもがキッズスクエアには参加できている姿を見ると、「キッズスクエアには来ているな。」問題行動があれば「大丈夫かな。」と注意して見守っています。

地域学校協働活動が実際始まっていく中で、プライバシーの問題が課題になってくると思います。不登校等の情報の共有があれば見守りやすくなると思いますが、そのあたりが難しいと思います。

<柳生副委員長>

私は小学校に勤めていたこともあって、先程の学校が閉鎖的であるというご意見には同感で、その当時のことを思い出すと、隣のクラスが何をしているかわからない。といういかに閉鎖的であったかと今にして思う今日この頃でいます。

子ども達が開放的で安心安全な学校であってほしいと思うのですが、池田小学校事件以来、門は閉ざされています。キッズスクエアは時間もやりたいことも自由なのですが、規律のとれた子ども達が持てる力を発揮できる学校であってほしいと願っています。

勤務していた者が閉鎖的と思うくらいですから、世間一般からどれだけ閉鎖的と思われるだろうと思います。あと今、教員のなり手不足が深刻です。芦屋市も例外ではないと感じていて、若い人材をどうしたら得ることができるか。閉鎖的な状況であれば、若い人が希望しないのではないかと懸念しています。そういった事も含めて、どう地域と連携していくかが課題となっていくと思います。

<酒井委員長>

今年度の小学校の教員採用試験において、大分県は募集人員より受験者数が少なかったそうです。兵庫県の倍率は4倍程度ということで、全国的に比べたら多い方なのですが、魅力がある職場であってほしいし、そういう地域がキーワードになると思います。

<小林委員>

不祥事があった時の対応で、テレビで教育委員会が平謝りをして理由を言わないというイメージがあったので、そういうことがないような誠実な学校であってほしいと思います。子どもにも悪いことは悪いとハッキリ言えるようになってほしい。例えばいじめを見かけたら、その場で注意できるような子であってほしいと願っています。

<金本委員>

登校見守りのおじさんおばさんには、笑顔で元気に挨拶しているのですが、学校に行くと、いろんな先生に挨拶をすることを子ども達がしないそうです。それは何でだろうと考えてみたのですが、先生からも何も言わないし、子ども達も言わない。

また、先生と仲良くなろうというお母さんが少なくなっているように思います。ベ

テラン先生はよく話をしようとしませんが、若い先生は「誰？」という顔すらせずに通り過ぎて行きます。こちらとしては先生から話かけてほしい。という思いがあります。

<高橋委員>

朝日ヶ丘小学校の学校目標は「共に学び支え合う子ども」です。

社会的な問題があれば、必ず教育と称して学校に降りてきます。教員も朝から帰りまで、頑張っています。至らないこともありますが、放課後に公園で子供がケガをすれば、学校に連絡が入り教員が駆けつけます。子供が帰ってこないで連絡が入れば、その家に行ったり、職員室にいる教員がその子供の写真を見て、地図で場所をおおまかにわけて、手分けして探しに行きます。

日々、そのような対応をしています。今、数値で見えるテストや偏差値を重視するのではなく、非認知能力と言って、目に見えない力をしっかりとつける必要があると思います。コミュニケーション能力でただしゃべるだけじゃなくて、相手のことを考えて折り合いをつけることや最後までやり抜く力、好奇心を持つこと、そういった目に見えない力を学校や地域、保護者、家族で身につけることができるようにしていかないと、自分のことだけを考えてしまい他人をおろそかにするようになる傾向にあるので、そういう事は、大人が気を付けてみていく必要があるように思います。

<酒井委員長>

学校・地域・家庭のそれぞれが責任を果たしていくのが、理想的かと思います。

では項目の「現在どのような地域学校協働活動に携わっておられますか。また、芦屋市の地域学校協働活動の強みは何だと思えますか。」について、ご意見をお願いします。

<池田委員>

主任児童委員をしています。コロナの影響で、ほぼ学校の出入りはしていません。登下校の見守りをしている程度です。

強みは、子ども中心で出来ているところがいいと思います。

<小西委員>

精道キッズスクエアと精道小学校ボランティアのスマイルネットと芦屋市子ども会常任理事です。強みは、地域の子供達と顔見知りになれたことです。

<柳生副委員長>

浜風小学校のキッズスクエアのマネージャーと外国ルーツの子供の日本語サポートネットで岩園小学校と浜風小学校に行っています。

芦屋は、コミスク活動等で、随分と以前から地域連携がすでに取りれていると思います。

外国ルーツの子どもも増えてきていて、特別支援の子どももインクルーシブで入っているので、大人が教室に数名入っているので、そういう意味では開放された状況になりつつあると思います。

<小林委員>

愛護委員をしていますので、登下校の子どもの見守りをしています。役員をしていない方でも登下校の見守り活動に協力してくださる地域住民がたくさんいます。

<酒井委員長>

見守りですが、任意的で「やってもいいよ。」という人が参加されているのか、「しなくはいけませんよ。」と声掛けしているのでしょうか。

<小林委員>

浜風小学校では愛護委員は任意になっていますので、「やってもいいよ。」という方がしています。

<金本委員>

潮見で愛護委員と主任児童委員です。なかなか手がいなくて、民生委員は75歳が定年で、その人達が見守っている状況で、そういった方たちは「50代の方は、どうしているの？」という話になります。

40代50代の方は一番お金がかかるのと親の介護等いろいろと大変な時期なので。と言うと「私達も、やってきたよ」と返されます。PTAに加入した人が役員になるので、いろいろと難しいようです。協議会を開催したとしても、降ろしていく人がいない状況です。皆が分かるように、小学校の入口付近にお知らせを貼り付けることを考えたりします。このコロナ禍で、必要事項の声掛けを発信できない状況になっているように思います。

見守りも、この時期1年生のお父さんお母さん見守りやりましょう。というご案内を作りましたが、参加率が悪くてやめたようです。もう少し、こちらから言っていけないといけないというのがあります。

<酒井委員長>

難しいところですね。今、社会が人生100年時代とか定年制が後ろに延長されたりとか、生き方の多様化で、ものすごい勢いで変化していますので、その中で地域と学校が、どうリンクしていくかを考えないといけないと思いました。

<高橋委員>

芦屋は昔からコミュニティ・スクールがあって、多岐にわたって活動されていて、学校

に参画していただいているので、とても助かっています。あとインクルーシブ教育が他市に比べて進んでいます。子ども達に寄り添った教育をしていると思います。

ゲストティーチャーを依頼する際も、人材が豊富で保護者で多彩な方が多いです。読み聞かせのボランティアの方も現在PTAの方以外に卒業生の保護者や年配の方が、紙芝居を作ってくださいたり、読み聞かせをしてくれます。今、給食コラボで絵本に載っている給食を調理師が作ってくれたりして、求めれば沢山の人材があるような気がします。

<酒井委員長>

私は他市の状況を見てきていますので、芦屋のキッズスクエアの取組みを聞いたときに、こんな事ができるのかと驚きました。他市から見たら、多彩な方々がいて、企業と繋がりがあつ素晴らしいさを強みとして継続していただきたいと思います。

では次の「地域学校協働活動を行う上で、学校と地域の間での課題」について、順にご意見をよろしくお願ひします。

<池田委員>

教員が忙しすぎて、朝から夜遅くまで仕事をしている様子がよく分かります。自分の仕事で手がいっぱい、地域との取組みまで難しいように思ひます。子ども達に会う機会があり、子ども達からは、このおじちゃん、おばちゃん達は誰だろうという顔をされますが、しかし、そこから顔見知りになれたらいいと思ひています。

<酒井委員長>

学校現場の忙しさはここ数年で加速度を増しています。例えば、プログラミングが導入されたり、新学習指導要領を受けて、英語が教科化されたりで、先生がたが対応するのに大変で、心の病で休みに入られた先生が、データで過去最高の状況です。そういう状況を踏まえた上で、学校と地域が歩み寄っていく必要があると思ひます。

<小西委員>

情報の共有がどこまで出来るのかというところと子どものささいな行動でも学校にお怒りの苦情対応に大変かと思ひますが、子どもを大きく見守れる人材が必要だと思ひます。

<酒井委員長>

野村委員、そのような問い合わせ多いですか。

<野村委員>

多いです。昔は地域の方が叱りやすかったと思ひのですが、最近では場合によっては不

審者的な扱いになったりして、ギスギスとした世の中になってきたので、苦情の際は内容によって、「全校長会で周知させていただきます。」「地域委員さんや愛護委員さんにお伝えしておきます。」というお答えもしています。

苦情内容は、人の受け取りが様々なので、その都度対処しています。

<酒井委員長>

学校と地域に繋がりがあれば、そういった部分の理解は得られるという事でしょうか。

<野村委員>

そうですね。地道な取組みが必要かと思います。

<柳生副委員長>

情報をどう発信するかが課題だと思います。ホームページをよく見ている方もいるので、つながりにくいと閉鎖的に思われます。あと教員のなり手不足で若い人材をどう取り込むかが重要に思います。

<酒井委員長>

学校がいきいきとしていたら、教員志望の方が増えると思いますので、日々の取組みが大事かと思います。

<小林委員>

見守り活動を地域の方がしている事を子ども達が理解できていないようなので、その点から教える必要があるように思います。あと学校内で管理職の方はあいさつしてくれますが、一般の先生はすれ違っても、あいさつせず、目すら合わせてくれません。その点に壁を感じます。

<酒井委員長>

その点は教育委員会が初任者研修、校長先生からの指導が重要になりますね。

<野村委員>

忙しいというのと挨拶をしないというのは全く別物で、教員は子供のお手本なので、誠にお恥ずかしい話ですが、校長会を通じてしっかりと指導していきたいと思います。

<金本委員>

見守り活動は高齢化していますが、やっている人は元気をもらえて嬉しいと言います。ただ、自分が倒れたら誰が見守り活動をするのか、途切れそうだと言っています。町内の親同士でもらうようお願いしたら、「そうですか。」との返事だけ返ってきました。

地域での話し合いの大切さを感じます。

<高橋委員>

このコロナ禍の3年間で、学校に来ていただくチャンスが少なくなりました。学級懇談は無かったと思います。何とか参観は出来、オープンスクールは難しく、そういう中で保護者と出会うチャンスがありませんでした。学校がどのようなことをして、子どもがどんな様子かをお伝えする事ができずに、閉ざされている雰囲気はあったように思います。学校運営協議会では、学校の課題を地域の方と宝である子ども達のサポートを皆で話し合っていて決める機会ができたことを嬉しく思います。

<酒井委員長>

次の「学校の課題もしくは教員が行っている仕事で、地域が協働・連携できると思うものはありますか」についてご意見をお願いします。

<池田委員>

先生が自らしなくていい業務を地域の方で分担したらいいと思います。地域の方が給食サポートを1年生対象にしていることは知っていますが、全学年サポートでもいいと思います。

<小西委員>

スマイルネット中心でしていた図書ボランティアや新入生の給食の手伝い、ミシンボランティアがコロナ禍で中止になっていたのですが再開していければ、地域の方と関わりを持つという意味でいいと思いました。

<柳生副委員長>

登下校の見守りや遊具や運動場の安全点検、部活動や委員会活動にもその分野で長けている人に参加して貰ったらいいと思います。給食補助も配膳や片付けのサポートをしていただくと教員が助かります。あとタブレットもフリーズしたりするので、学生に参加いただけたら、教員志望が増えるのではないかと思います。

<小林委員>

学校と地域が連携して防災訓練や不審者対応訓練ができたらいいと思いました。防災訓練で学校での避難所開設の動きをシュミレーションし、不審者対応訓練で、実際に地域住民の家に逃げ込む訓練をしていたら、子ども達もとっさの際に動けると思います。

<金本委員>

ボランティアメンバーが声掛けして、引き抜きしていかないと全く増えません。

<高橋委員>

沢山いいご意見が出て、参考になりました。学校が人材不足で、ボランティア業務の取りまとめを教頭一人でやっています。コーディネーターの役目をしてくださる人がいれば助かるように思います。

<酒井委員長>

たくさん良い意見が出たと思います。

事務局におかれましては、本日出た意見を参考に、芦屋市でのより良い形を模索していただければと思います。

次に議題4その他について、事務局から何かありますでしょうか

<事務局：岩本課長>

議題4につきましては特にありません。本日は皆様から活発な貴重なご意見ありがとうございました。令和6年度の学校運営協議会と地域学校協働活動の本格実施に向けて、双方が何に困っているのか、何を必要としているのか、何を目指すのかをしっかりと伺いし、また考えていきたいと思えます。

それぞれの地域・学校のさまざまな課題等を見える化していくということで、今回のご意見もまとめさせていただき、今後の各学校運営協議会の実情を話し合う時に参考にさせていただけたら、学校ごとの特色をより掘り下げた内容になると思えます。

<酒井委員長>

本日は活発なご意見いただき、ありがとうございました。今年度の放課後子どもプラン運営委員会を終了させていただきます。

4 閉会